烏山という名のおこりとお城づくり

むがーし、戦国時代にはな、自分の領地を広げようと、あっちこっちでお殿様同士が戦ってたんだと。その頃は、親子兄弟でも、すきがあったら殺してしまおうっていう、物騒な時代だったんだ。

大田原市佐久山の近くに、那須資之（すけゆき）と、弟の沢村五郎資重（すけしげ）っていうお殿様がいたんだげっと、兄弟仲が悪くなってな。やがて、激しく戦うようになったんだげっと、ながなが勝負がつかなかった。

そのうちに資重は、

「兄弟して、こんなに戦うごとはよぐねぇ」

って思ったんだな。自分の方がらお城を出て、興野の館に引っ込んだんだ。その後、下境までやって来て、稲積城（いなづみじょう）をつくりなおしたっていう話だ。

その頃、資重をねらっていたのは、東の方では常陸の佐竹、西は宇都宮、北は親戚の

北那須の軍勢だった。これらの大軍がいつ攻めてくっかわがんねえがら、稲積城よりももっと大きくって、もっと頑丈なお城を、興野の平群山（へぐりやま）につくろうって、準備にとりかかったんだと。

そんなある日のこと、一羽の烏が金色の幣束（へいそく）をくわえてな、平群山の上から西の方の山、今のお城山の方に向がってゆっくり飛んでった。烏は、お城山の上を何回か大きくぐるぐる回って、飛んでたんだ。そのうちに、前よりも高ぁく舞い上がって、羽を大きく広げたと思ったらな、くわえてた幣束を、いーちばん高い山のてっぺんに落っことして、飛び去ってったんだと。

それをじいっと見ていた資重は、

「これはきっと、熊野権現さまのお導きに違いない。ありがたいことだ、ありがたいことだ」

って思ってな、平群山のお城づくりをやめにして、烏が幣束を落っことしてった山に、お城をつくることにしたんだ。そんなわけで、千四百十七年、お城山に立派なお城ができあがったんだと。

お城ができあがった山を遠ぐがら見っと、ちょうど牛が寝っころがってる姿によく似

てたんで、臥牛城（がぎゅうじょう）って名づけられたんだ。別の名を牛城っても言われたんだ。

このお城は、本丸をはじめ頑丈につくられたんで、難攻不落の名城って、言われるようになったんだ。その証拠にな、隣の国の佐竹や宇都宮の大軍が、たびたび攻めてきても、この城の中へは誰ひとりとして、一歩も入れなかったんだと。

お城ができあがってからは、お城山近くの侍屋敷のあったあたりを「烏山」って呼ぶようになったんだと。

それが、古くからあった酒主村（さかぬしむら）の呼び名もまじってな、いつの頃がらが、地域全体を「烏山」って言ったり、「酒主村」って言ったりするようになったんだ。

昔の人はさぞ不便だったと思うんだげっと、このふたつの呼び名を上手に使いわけながら、この地方は、城下町として発展してきたんだと。

そうして、明治八年になっと、酒主村の名前は廃止になって「烏山」がこの町の町名になったんだ。昭和二十九年には、七合、境、向田村と合併して、更に大きな烏山町になってな。平成十七年の十月からは、旧南那須町と合併して、那須烏山市になったんだ。

そんなおはなし

おしまい

ひと口メモ

幣束をくわえた烏とお城のデザインをしたフェンスが、市内にあります。清水川せせらぎ公園、烏山小学校、烏山高等学校北側のフェンスで見られますので、近くを通った時には、ぜひ気をつけて、ご覧ください。

また、現在の城跡は、杉林に覆われていて、空堀・土塁・石垣などが、良好な状態で残っています。遊歩道も整備されていますので、城跡を見学しながら、周辺を散策することができます。